発寒ひかり
保育園だより

2024年
9月号

巻頭言

ウクライナの侵攻、また中東の戦闘など、まだまだ終わる兆しはなく、今なお世界の多くの人々が犠牲となり苦しんでいます。終戦記念日の近づいた先日のこと、ばんび組（４歳児）の活動の中で、戦争について話をしました。

戦争の話をした８月９日は、７９年前に長崎に原爆が落とされた日でした。原子爆弾により大人も子どもも関係なく、命を奪われたことを伝えると、はじめは「せんそうってしらない」と話していた子たちも、だんだんと真剣に耳を傾けるようになっていました。特に興味をもって聞いていたのは、広島のＨさん（８４歳男性）が５歳の時に大好きな父親を失ったという被爆体験の話でした。朝、元気に出勤した父が電車の中で被爆し、背中に多くのガラスが突き刺さったまま自宅に帰宅。その姿を見たＨさんは、ガラスを抜こうとしたが、抜けず、そのまま父は次の日に亡くなったという内容でした。子どもたちの表情は曇り「かなしい」「なみだがでそうだった」と話していましたが「平和がずっと続くためにはどうしたらいいと思う？」という問いに「けんかをしないこと」と、自分なりに平和の大切さを考えてくれていたように思います。

８月６日に行われた平和記念式典の中で、地元の小学生代表が「一人ひとりが相手の話を聞くこと。違いを良さを捉え、自分の考えを見直すこと。仲間と協力し、一つのことを成し遂げること」と、述べていました。平和をつくっていくのは、他の誰でもない私たち自身です。自分自身で考え、判断し、仲間と共に生きていくことが、子どもたちの明るい未来に繋がり、それが平和への第一歩だと信じています。これからも、子どもたちと共に平和について考えていきたいと思っています。

ばんび組・いちごファミリー担任　本間　香織